

平成13年夏季展示企画

# なこわ ↔ きのくに

## -泉州・紀州の鉄道史-

### 鉄道講演会

7月29日(日)

午後2時～4時(1時より受付)

場所:1階ホール

「南方への鉄路 -南海VS阪和のレール・ドラマ-」

追手門学院大学教授 宇田 正

「都市をデザインする -シンボルとしての列車プラン-」

都市計画家 小田 靖弘



7月20日 金・祝 - 9月9日 日

大阪府立弥生文化博物館

### 鉄道模型運転会

運転:南海電車愛好会

8月4日(土) 5日(日) 18日(土) 19日(日)

午前11時～午後4時

場所:1階ホール



### 現地探訪

水間鉄道と紀州鉄道

<定員30名、要申込、先着順、交通費等は当日お支払い下さい>

9月2日(日)

午後1時、水間鉄道貝塚駅改札口前集合

講師:貝塚市教育委員会社会教育課文化財係長 前田浩一

往復はがきに参加者全員の名前・年齢・住所・電話番号を

書いて、大阪府立弥生文化博物館、探訪係まで <8月20日必着>

### 学芸員による考古学講座

9月9日(日)

午後2時～4時(1時より受付)

場所:1階ホール

「大阪の熊野大道」学芸員長 石神 怡

「万葉一遙かなる紀路への跡」学芸員 馬場 英明



主催=大阪府立弥生文化博物館

後援=(財)大阪21世紀協会/JR西日本

資料協力=南海電気鉄道(株)/阪堺電気軌道(株)

協力=鉄道フォーラム・旅行フォーラム

協賛=大阪明浄大学観光学部

●開館時間/午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日/毎週月曜日 ●入館料/個人=一般300円・  
高大生200円・小中生・65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料 団体=一般240円・高大生160円(団体は  
20名以上) ●所在地/〒594-0083和泉市池上可443 ●電話=0725-46-2162  
●ホームページ=http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/

## 大阪府立弥生文化博物館へは

南海本線  
松ノ浜駅から  
徒歩20分

JR阪和線  
信太山駅から  
徒歩7分

国道26号池上町交差点南西角



平成13年夏季展示企画

# なにわ↔きのくに

-泉州・紀州の鉄道史-

夏は海へ、山へ。人々は元気とやすらぎを求め、南へと旅立って行きます。古来、奈良・京都・大阪の都の人々は、広大な紀州の海と、霊力のやどった高野・熊野の山に、あこがれを抱いていました。そして開かれた、泉州から紀州への遙かな道のり。近代になって、大阪から競うようにして鉄路は南へのびていきました。大阪一和歌山間が鉄道で結ばれてはや100年。この機会に、大阪から和歌山さらに南紀への観光と交通の発達を考えてみたいと思います。

## 第1部 泉州・紀州の往来

泉州と紀州の人々は、弥生の昔より交流があったことを、考古資料はものがたっています。そして万葉の時代に都人は和歌浦・白浜へ出かけ、中世には熊野詣が盛んになり、近世の西国巡礼へと受けつがれていきます。鉄道ができるきっかけにもなった昔の旅をふりかえってください。

## 第2部 阪和都市間交通の発達

近世までに栄えた都市や街道に加え、近代には新しい産業が続々と花開いた泉州。これら活力ある町を結んで、鉄道が成立・発展していきました。王寺、五条まわりで大阪-和歌山が結ばれたのが1900年、南海線の全通は1903年、阪和電鉄（現・JR西日本阪和線）の全通は1930年。なつかしいあの頃の電車に、駅に、再会してください。

関西国際空港めざして走り始めた最新車両の情報も、見のがせません。

## 第3部 紀州へ、海と陽と木の国をめざして

さらに和歌山より南へ、鉄道は延びてゆきます。いにしえの人々が巡礼し、風光をめめた景勝の地をめざして。そんな時代のちょっと昔の観光を、古い絵はがきやパンフレットとともにふりかえります。

また、紀州をめざして計画され、ついに実現できなかった鉄道建設についても、初公開の図面で紹介します。

## 主な展示品

- ・大辺路図（江戸時代の紀州沿岸絵図）
- ・和歌浦、熊野、高野の古絵図
- ・南海線・阪堺線・阪和線・高野線・和歌山線・紀勢線の車両模型・写真・駅名板・列車行先板・乗車券など
- ・紀泉鉄道、五新鉄道関連図面
- ・ラピート誕生の資料

大阪府立弥生文化博物館

Osaka Prefectural Museum of Yayoi Culture

〒594-0083 大阪府和泉市池上町443

TEL:0725-46-2162

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>